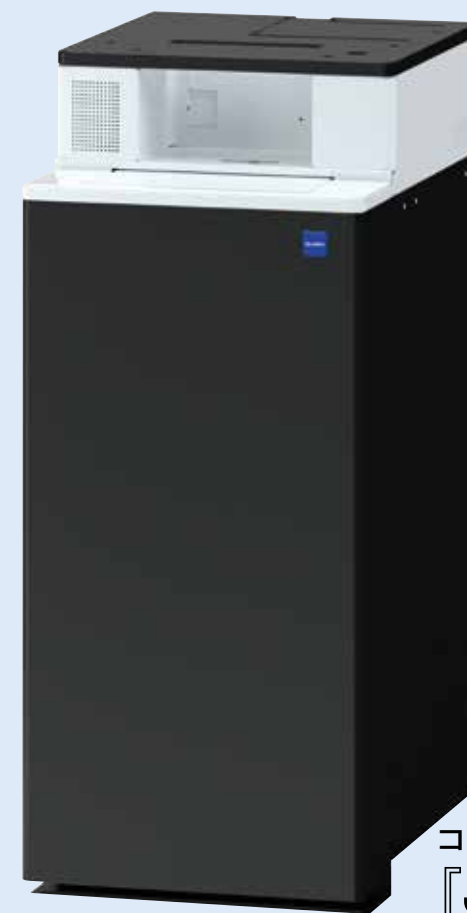


セルフ交換時代の賞品保管機を発売

省スペースで新しい運用スタイルへ

グローリーナスカがセルフ賞品交換コーナーをコンパクトなレイアウトにする賞品保管機『JK-C500』の販売を開始した。従来に比べて大幅な省スペース化を実現。ホールのセルフ賞品交換運用を強力にサポートする機能も付加した。



コンパクト賞品保管機
『JK-C500』

コロナ禍を経た社会環境の変化で、スーパーマーケットや大手衣料品店などさまざまなシーンでセルフレジが一般的になってきた。パチンコホールでもここ数年、セルフPOSの導入が進んできたが、ここにきて人材採用難や

ホール運営上でのコスト削減を見据えてセルフPOSのニーズが急速に高まってきている。グローリーナスカ営業推進部 販売企画グループの丹谷マネージャーは最近の状況をこう語る。「従来はカウンターにPOSを2」

3台設置していましたが、セルフ運用が始まってから有人POSを2台、セルフPOSを1台といった運用に変わってきました。さらに今年に入ってから是有1台、セルフ2台になってきています」

**コンパクト設計だから
さまざまなシーンで設置可能**

そうした状況の中、グローリーナスカではさらなる業務の効率化と省力化を図るべく、賞品保管機の新しいラインナップをリリースした。

同社は2018年に『JK・500』を発売。これは賞品の保管・計数・在庫管理と払い出しまで行う賞品保管機。賞品専用ケースに賞品が入ったまま保管機に入れるだけのダイレクト入庫機能などが評価されてロングセラー商品になった。

このほどリリースした『JK・C500』はダイレクト入庫機能などの利便性はそのまま、セルフ交換のための賞品保管機と位置づけた。従来のカウンター型スタイルから、銀行などの

ATMスタイルにデザイン変更。ホールにおける賞品交換スタイルを柔軟に変えることができる賞品保管機となった。

特徴はカウンター型の『JK・500』の3分の1ほどの幅になったコンパクト設計。これにより、スマート遊技機の登場で玉・メダル計数機が必要なくなった島端や、ホール内のデッドスペースを活用したATMスタイルでの設置も可能になる。賞品提供の新ルールによってパチンコ・パチスロ専用賞品の提供が可能になったことから、それぞれをセルフ交換しやすい場所に設置するなど、アイデア次第でさまざまなシーンが考えられそうだ。もちろん、従来の有人カウンターの横にセルフ交換コーナーとして設置することもできる。

**数種類の賞品を重ねて払い出し
賞品取り忘れ対策も万全**

機能面でも『JK・C500』は進化を遂げた。これまでは7つのレインで異なる賞品を払い出すスタイルだったが、『JK・C500』ではレインが5つになり、1つの払い出し口から数種類の賞品を重ねて払い出すシステムを実現。また、賞品の取り忘れを検知した場合に賞品を取り込む取り忘れ防止対策も施した。内部には払い出し部



『JK-C500』の上部にセルフPOS、右に精算機を置いたパッケージ

が3ブロックあり、1ブロックが故障しても他のブロックで運用をカバーできる。

機内の賞品在庫状況は画面でいつでも確認できるほか、機内の在庫が少なくなった場合はホールコンピュータに即時に通知されるので、セルフ運用を止めることなく営業を続けられる。

一方で、高いセキュリティ性も備えているため、営業終了後にスタッフが賞品在庫を数える作業を省き、賞品保管機に賞品を残したまま翌日の営業を迎えることができる残置運用機能を搭載。また、セルフPOSと精算機を接続することで、カードの残額精算から

賞品交換までを1回のオペレーションで実現する。

セルフ賞品交換を推進したいこれらのホールにとって、強い味方が登場した。

[A]



ダイレクト入庫機能
賞品専用ケースに賞品が入ったまま保管機に入れるだけ



賞品重ね払い出し機能
数種類の賞品を重ねて払い出し。取り忘れ防止につながる



セルフ専用カウンター



ATMスタイル設置イメージ



『JK-C500』
特設サイトはコチラ